

未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子！

命あふれる緑の季節に思う

以前、青垣中学校に勤務していた時、毎朝楽しみにしていたことがあります。それは、高速道路の上から眺める幸世の田んぼの風景でした。

田植えがすんだ今の季節から、田んぼの緑がどんどん変化していきます。日々表情を変えていく田んぼの緑がなんとも美しく、日本の田んぼの風景って、本当に素晴らしいものだったんだなあとしみじみ感じたのを覚えています。所々、黄金色に輝くのは麦畑。中学生に「麦秋」という夏の季語があるのを伝えたくて、幸世まで写真を撮りにきたこともありました。

私が小学生の時のことを思い出すと、田んぼの緑がどうのこうの、というのは残念ながら思わず過ぎていたように思います。初めてそのことに気づいたのは、スタジオジブリの「トトロ」を観てからです。あの美しく懐かしい日本の田舎の風景（田んぼの緑の稲が風にそよいでいく姿や山影が映り込んでいく姿も含めて）の描写に触れ、幼いころ、何気なくいつも自分のそばにあった田んぼの記憶が蘇ってきました。

そういえば、神戸でマンション暮らしをしていた大叔父は、ベランダでめだかを飼ったり、園芸を楽しんだりしていました。園芸と言っても、山で採ってきた植物を育てていたのです。「なんぼ長いこと都会におっても、やっぱりこれが恋しくなるんや」と。

子ども達も今は、幸世の田んぼの美しさに気づいていないかもしれません。幸世の豊かな自然が自分の中に確かに根付いていると発見するのはもっと先かもしれません。その時が来るまで、私たち大人がちょっと声をかけたり気づかせたりすることも大切なのではと感じています。

保護者の皆様、地域の皆様、生命力あふれるこの季節、子ども達に幸世の自然の豊かさが根付くようちょっと声かけしてくださいましたら嬉しいです。今は「ふーん」くらいの反応かもしれませんが、きっと子ども達の心の財産になっていくと思います。よろしくお願いします。



1年生を迎える会から

児童会と6年生が企画した、1年生を迎える会は大成功でした。始まる直前まで、学校中のセロテープを総動員して投げ輪を作ったり、会場準備をしたりと大忙しだった6年生の喜びは、また格別のものだったでしょう。

自分達で考え動き、時にはぶつかり合いながら力を合わせてやり遂げる、子ども達の自治活動は大切な学びの場です。成功すれば達成感を得、自己肯定感を高めることができますし、たとえ失敗したとしても、そこから学ぶことがたくさんあります。子ども達には、児童会活動や学級活動の中で、たくさんのことを学び、成長して行ってほしいと思っています。